

秋田大学 正貴 ○薄不征三
佐藤工業 正貴 東郷幹生
秋田大学 正貴 稲嶋知徳

1. 研究状況

薄肉直線析の剛性マトリックスは、すでに多くの研究者によって算出されてる。これらには単純ねじりのみならず、曲げねじりを考慮したものもあり、また微小変位理論のみならず、大変形を考慮したものも発表されている。しかししながら薄肉曲線析に用いては微小変位理論に基づくもので、曲げねじれを考慮したものは極めて多くない。しかも既存のものは、剛性マトリックスの構成に薄肉曲線析に用いる場合の解を基本にしてる点で正確なものであるけれども、又曲線座標を記述複雑な表式となるてあり、黄断面曲線析等には適用が難しい。このため、たゞ今と似た構造で、級数で近似し、曲げねじれを考慮して平明かつ十分に精度の高い剛性マトリックスを示す。

2. 剛性マトリックスの説明

図-1と2に示すような構造を

を考える。図-2で、Oは中立点、Sはせん断中心、Dは任意点である。またSは薄肉中心線に沿う綫座標である。以下ではせん断中心軸に関する変形を考慮することにする。荷重は曲率面外のもののみとし、曲率面内の変形を考慮しないものとする。節点*i*での自由度は、たゞみう_i、たゞ曲角φ_i、ねじれ角ψ_iであり、それに対する節点力は、せん断力Q_i、曲げモーメントM_i、ねじりモーメントT_i、曲げ剛性モーメントT_{0i}である。j点につきても同様である。剛性マトリックスの要素は以下のようである。
S点を通る軸線の法線とねじれ角

$$\begin{aligned} u &= a_0 + a_1 \theta + a_2 \theta^2 + a_3 \theta^3 \\ \varphi &= b_0 + b_1 \theta + b_2 \theta^2 + b_3 \theta^3 \end{aligned} \quad (1)$$

と近似する。表示を簡単にするために、θ = 0, j点のθ = π/2とし、a₀ ~ a₃とb₀ ~ b₃を節点自由度で表すことにする。また、

$$\begin{Bmatrix} u \\ \varphi \end{Bmatrix} = [N] \{ \delta \}^e \quad (2)$$

[N]は形状関数でありθの3次式、また{δ}^e = {u; φ; ψ; u_i; φ_i; ψ_i}^Tである。次に断面内の軸方向歪ε₀と、薄肉中心線に沿うせん断歪γ_Sを歪の定義に基づき、式(2)を用いて計算する。結果の求め方

$$\{ \epsilon \} = \begin{Bmatrix} \epsilon_0 \\ \gamma_S \end{Bmatrix} = [B] \{ \delta \}^e \quad (3)$$

[B]の要素はθの2次式である。次に応力-歪関係

$$\{\sigma\} = \begin{Bmatrix} \sigma_0 \\ T_S \end{Bmatrix} = \begin{bmatrix} E & 0 \\ 0 & G \end{bmatrix} \begin{Bmatrix} \epsilon_0 \\ \gamma_S \end{Bmatrix} = [D] \{ \epsilon \} \quad (4)$$

を用い、仮想仕事の原理を用いれば次式を得る。

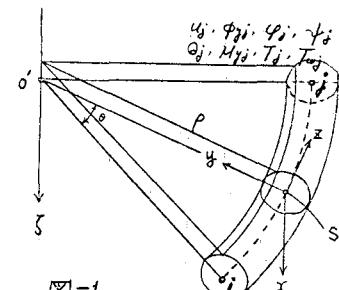


図-1

u_i, φ_i, ψ_i, γ_s, Q_i, M_i, T_i, T_{0i}

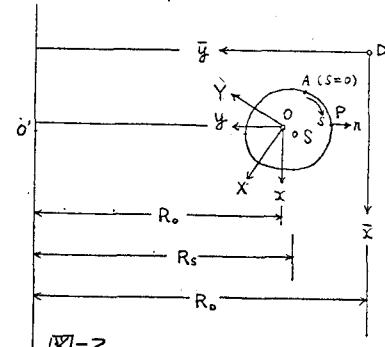


図-2

